

陸軍歩兵大尉 多門二郎著

予が参加したる日露戦役 一名日露戦對照戦記

體裁 四六判
紙數 各冊四百餘頁
製本 本製脊金文字入
全、前後 兩篇
定價 各一冊 金七十五錢
小包料 八錢

本書の内容に就て弊社は喋々せずとも本書は如何に讀書界に於て歓迎されつゝあるかは左の七大新聞の本書に對する批評を見れば其の眞價を卜知するに足らん。
東京時事新報。東京朝日新聞。報知新聞。讀賣新聞。大阪時事新聞。國民新聞。大阪朝日新聞の評。

日露戦争の初期に野戦歩兵聯隊の小隊長として出征し戦地にて大隊副官となり大尉に昇進して聯隊副官となり更に旅團副官となれる著者が動員下令より凱旋に至る迄の戦闘經過並びに對陣間の行動を日記體に書きたるものにて飾らざる中に眞情發露し戦地に於ける凡ての状況を恰かも見るが如く徒らに粉彩を施したる戦争誌などの比にあらざ前後二篇に分れ各戦闘地域の概見圖もあり青年將校は勿論將校生徒其他軍事に心を傾くる者は一讀し置くの必要あり。

◎發行所

東京市赤坂區表町二丁目一番地
電話新橋二六〇五番
振替貯金番號二〇九八七

兵事雜誌社

陸軍省軍務局長陸軍中將 長岡外史閣下序
海軍軍令部參謀海軍少將 名和又八郎閣下校閱
歩兵第二旅團長陸軍少將 仙波太郎閣下校閱
麻布聯隊區司令官陸軍歩兵大佐 小澤徳平殿校訂
海軍教育本部副官海軍中佐 大瀧道助殿校訂
麻布聯隊區司令部副司令官陸軍歩兵中尉 中澤東齋殿編纂

徴兵並陸海軍志願者必携

體裁 四六判
紙數 二百五十餘頁
全一冊 金三十五錢 郵稅六錢

世に徴兵並に陸海軍志願に關する著書甚だ多し、或は心得と云ひ或は案内と云ひ、其の數管に數十を以て算すべきに非ず。然れども其の内容に至りては多くは杜選孟浪を極め、然らざるも訂正補修の勞之に伴はず、死文を以て殆ど之を充塞せるあり、これあるが爲に看者を誤り、延いて徴兵事務上に影響を及ぼすこと決して少からず、麻布聯隊區司令官風に茲に見る所あり、同副官中澤中尉に命ずるに本書編纂の事を以てし反覆推敲、疑を正し、不備を補ひ、且つ實地の見聞を加味して脱稿せるもの本書即ち是れなり。
されば本書が總べて最新の法令に準據し、徴兵及志願者に必要の事項を網羅せるは云ふ迄も無く、原文の意味を失はざる限りは之を省略敷衍し、或は解釋稍々困難の箇所には註を附せる等、讀能く諸般の事情に通せしむることを圖れり。従つて徴兵の選に當れる者諸志願の意ある者は必ず之を携ふべく、徴兵事務に携はれる人々と雖も、亦必ず一本を備へざるべからざるなり。乞ふ之を坊間流布の類書と混同すること勿れ。

◎發行所

東京市赤坂區表町二丁目一番地
電話新橋二六〇五番

兵事雜誌社

兵事雜誌社編纂局編輯

兵事雜誌社發行

兵事雜誌
臨時發行

軍隊生活

訂正増補
第五版

口繪 二十四枚
正 一部 金十三錢
郵 一 金一錢五厘

方今世運駸々として日に文明に進み、百般の知識斷へず長大足の進歩を爲すに反し、現時我國の軍隊に對せる思想は甚幼稚にして尙ほ舊觀を改めず、新入營者も如何様準備すべきかを知らず、入營後も茫然として爲す所を知らず、其父兄たる者亦子弟が軍隊に在りて如何なる苦勞を嘗め如何なる生活を爲せるかを知らずして徒に憂慮せり。此の如くなる所以の者は軍隊と他社會との交通の不便によると雖苟も健全なる帝國男兒たる者は一度は必ず此の生活を爲すべきか故に勉めて其の事情に通曉し以て無益の苦勞を避けざるべからず。假令局外者といへども今日の世に處して此の方面の知識を缺くは男子として耻づべきにあらずや。

本書は此等の缺漏を補はんが爲めに特に著はしたる者にして記載の事項は入營、起居、修業、勤務、演習、退營等の諸目に分ちて平素の職務生活等の性質種類難易苦樂一に實驗に依り平易輕快なる文を以て極めて詳密にししかも趣味深く説述したり、されば局外者も之に由りて軍隊生活を想像するを得べく入營者は之に由りて準備を爲し在營者は之に由りて指導さらるゝを得、兵士の父兄は之に由りて最愛の子弟が如何なる生活を爲せるかを知り除隊者は之を以て軍隊の土産とするに適す。

海軍大尉若林欽氏著君

兵事雜誌社發行

兵事雜誌
臨時發行

海軍生活

説明圖 入り
正價 一部 金十五錢
郵 稅 金一錢五厘

方今世運駸々として日に文明に進み、百般の知識斷へず長大足の進歩を爲すに反し現時我國民の海軍軍隊に對思想は甚幼稚にして尙ほ舊觀を改めず、新入團者も如何様準備すべきかを知らず、入團後も茫然として爲す所を知らず、其父兄たる者亦子弟が艦艇に在りて如何なる苦勞を嘗め如何なる生活を爲せるかを知らずして徒に憂慮せり。此の如くなる所以の者は艦艇と他社會との交通不便によると雖苟も健全なる帝國男兒たる者は一度は必ず此の生活を爲すべし。故に勉めて其の事情に通曉し以て無益の苦勞を避けざるべからず。假令局外者といへども苟も海國男子を以て任ずるものは此の方面の知識を缺くは豈男子として耻つべきことあらずや。

本書は此等の缺漏を補はんが爲めに海軍大尉若林欽氏が特に著はしたる者にして其文章の輕妙なる其書の躰裁は畧ほ軍隊生活に酷似す見よ東洋の海國男子。

新刊發賣

東京陸軍地方幼年學校教官 宇川久衛先生編纂

軍隊新算術

上下二卷定價各一冊金十八錢
上卷發行

普通學中軍人に最も必要なるは數學を以て最大重要たるは言を俟たざる所にして算術は實に數學の基礎たり又之れが入門たり而して之れを修熟せんと欲するには其用書を撰擇せざる可からず之れ用書の良否は練習熟達上に關すると大なれば之を以て識者は特に軍隊教科用のため十分注意を加へ編纂せられたる良教科書の現はれんとを多年渴望されつゝありしが此書は其の渴望に應ぜんとして編せられたるものにして編者は現に東京陸軍地方幼年學校に在りて算術を教授す其の所説嶄新にして實際に適するとは多言を要せず殊に簡明にして親切丁寧に説かれたるが如きは初學者を裨益すると蓋し大なるべし志士宜しく座右の侶とせられんとを。

發行所

東京市赤坂區
表町二丁目一番地

兵事雜誌社

那須野舍君譯

兵事雜誌社發行

軍人文庫第一、二、三編

毎月一回定期發行

軍事小説

帝國々難の夢

上中下 各一冊金廿錢
三冊 郵税金壹錢五厘

實に之れ我日本開闢以來震天動地の大活劇、夢益々蔗境に入りては、筑紫海畔の大殺戮、東京への侵入、帝都の燃燒、國運の決着、堂々たる大日本帝國々旗を見るに至るまでの、あらゆる悲惨暗愴たる修羅場裡の實況、座がらにして、神逝き、肉躍り思はず快哉を叫ばしむる者あらん。全部、三卷よりなりて加ふるに文章明快、其攻撃及び防禦の如き譯者が最も苦辛せしところ、蓋し本書の特色なり。請ふ見よ、廿世紀新天地の海國男子海國婦女子よ。

兵事雜誌社出版略目

著譯者	書名	正價	郵稅	著譯者	書名	正價	郵稅
研究會著	戰略戰術詳解全七冊	各冊七・五	十錢	斷雲 居士著	統帥心理學全	四・〇	十錢
研究會著	新式兵棋詳解全	七・〇	〇八	兵藤 三郎著	最新獨和兵語辭典全	二・五	〇六
研究會著	因ル夜間演習教育全	五・〇	〇六	曾根田中尉著	步兵射擊教練の私解全	五・〇	〇六
軍隊教育	新兵教育ノ實驗全	三・〇	〇六	研究會著	決心問題と着眼點全	五・〇	〇六
有志專攻會著	日獨射擊教範比較研究	四・〇	〇六	丁丁生著	野外戰術實施	各冊五・〇	〇六
柳 雨 著	戰 争 ノ 片 影 全	五・〇	〇六	名和少將校閱	徵兵並陸海軍志願者必携	三・五	〇六
長澤 大尉著	騎砲兵戰術ノ研究全	五・〇	〇六	仙波少將校閱	各兵科對壕及坑道	八・〇	〇六
長澤 大尉著	續騎砲兵戰術ノ研究全	三・〇	〇四	木全 大佐著	將校用對壕及坑道	一・〇	〇四
研究會著	改正騎兵操典詳解全	七・五	〇八	森 大尉著	幹部教育實施資料全	二・五	〇四
多門 大尉著	予が參加したる日露戰役	各冊七・五	〇八	莫科生著	日獨佛戰術比較對照論	一・五	〇三
久保大尉共著	一の谷源 平 戰 闘 全	二・五	〇四	桑木 中尉著	新舊步兵操典對照比較	一・五	〇四
米田大尉共著	改正野戰砲兵操典詳解全	七・〇	〇六	川村大將閣下	砲兵小戰術上下全二冊	三・〇	〇四
研究會著	範 例 的 想 定 全	五・五	〇六	勅諭謹寫	勅諭讀法義解全	二・〇	〇三
研究會著	改正步兵操典詳解全	上六・〇 下五・〇	〇六	藁谷 大尉著	各種教練と體操全	各冊五・〇	〇六
研究會著	改正步兵操典詳解全	上六・〇 下五・〇	〇六	東條中將譯解	日本野戰乙野外要務令譯解	各冊七・〇	〇八

東洋陰士譯	英國步兵操典摘要全	一・八	〇三	宇野 教授著	軍隊新算術卷の上	一・八	〇四
B M 譯	戰爭の軍事上の觀察全	一・八	〇三	武田少將校閱	軍人格言例證全	一・三	〇三
吉野少佐校正	改正獨逸射擊教範全	三・〇	〇四	横井先生校閱	内外百傑士全	一・五	〇三
某氏の著	部隊戰闘射擊全	二・五	〇四	木村中佐講述	漕艇案内全	一・五	〇三
井上 大尉著	下士學科教育應用問答全	二・五	〇四	若林 少佐著	海軍生活全	二・〇	〇三
大原 少佐著	步兵の攻撃卷の一	三・五	〇四	本社編輯	軍隊生生活全	二・〇	〇三
B M 氏譯	戰場に於ける歩兵の隊形及運動全	一・八	〇三	那須舍著	帝國國難の夢	各冊二・〇	〇三
奧田 大尉著	基本戰術の應用 卷の一	五・〇	〇四	無名氏著	東洋の大波瀾全	二・〇	〇三
A B 氏著	基本戰術研究錄全	二・五	〇四	教育總監部	下士特別國漢文教程全	二・〇	〇三
東條 中將著	新獨逸步兵操典對照私解全	二・〇	〇三	同	下士特別地理學教程全	二・〇	〇三
吉野中佐校正	獨逸機關銃射擊教範全	一・〇	〇三	同	下士特別四十二年增補正	二・〇	〇三
I M 氏著	戰 争 と 外 交 全	二・〇	〇三	同	下士特別四十二年增補正	二・〇	〇三
某氏の著	兵器學試驗問題答解全	一・五	〇三	同	下士特別四十二年增補正	二・〇	〇三
某氏の著	新式火砲全	一・〇	〇三	同	下士特別四十二年增補正	二・〇	〇三
渥美大尉著	軍隊服務要覽全	二・〇	〇三	同	下士特別四十二年增補正	二・〇	〇三
井上博士講演	武士道全	一・〇	〇三	同	下士特別四十二年增補正	二・〇	〇三
藏山氏著	朝鮮半島の天然と人全	一・〇	〇三	同	下士特別四十二年增補正	二・〇	〇三
石村 教授著	讀法誓文衍義全	一・三	〇三	同	下士特別四十二年增補正	二・〇	〇三
				藁谷大尉共著	進化せる幕的育全	一・〇	〇三
				相良大尉共著	進歩兵第三聯隊眞影	一・〇	〇三

佐藤 少佐譯	千九百	獨逸野外要務令全	年改正	七〇	〇八	士官學校譯	單戰團及復戰團全	四〇	〇六
東條 中將著	一五〇	步兵操典改正草案評釋	全第一卷第二卷第三卷	一五〇	一二	參謀本部譯	古 今 戰 法全	三五	〇六
河村 中佐著	三〇〇	改正獨日步兵操典比較研究	全	三〇〇	〇四	和田 中佐著	決戰準備射擊距離論全	一一	〇二
松山 大尉著	七〇〇	改正理外要務令の應用	全	七〇〇	〇六	M K 氏著	小戰例評論及問題 第二	〇八	〇二
東條 中將著	一〇〇〇	步兵教練の彙全	研究用五分一地圖全部付	一〇〇〇	〇八	河村 大尉著	戰術研究 第一	二五	〇四
竹本 少佐著	一〇〇〇	應用戰術講授錄二各一冊	研究用五分一地圖全部付各一冊別付	一〇〇〇	〇八	坂田 中佐譯	青年將校の職責全	三五	〇四
研究會編	一〇〇〇	必携作 戰網要全	將校	一〇〇〇	〇八	奧村中佐 平澤大尉共譯	下士の職責全	一五	〇三
東條 中將著	二〇〇	戰術應用例全	陸軍戰術再審問題答解	二〇〇	〇四	本社編	性行字類全	〇七	〇二
晴軒 居士著	五〇〇	戰術原則の應用 第一卷	訂正增補第三版	五〇〇	〇六	桂法學士講演	各兵科論理學講義全	三五	〇四
松山 大尉著	三〇〇	夜間戰論全	全	三〇〇	〇四	小島大尉校補	步兵斥候教育全	二三	〇三
奧田 大尉著	五〇〇	日露戰役の實野戰築城全	驗上に於ける	五〇〇	〇六	無名氏著	各個散兵教練全	〇八	〇三
木全大佐 有川少佐校正	三五〇	步兵各個教練全	全	三五〇	〇六	陸軍月山學校	射擊速度教育方法全	一五	〇三
山本 大尉著	一五〇	戰術想定作爲法全	全	一五〇	〇四	沼野少佐校正	下士教育指針全	二五	〇三
晴軒 居士著	五〇〇	兵器學 全 第一卷第二卷	各兵科 將校用 四十一頁訂正增補第二版	五〇〇	〇四	陸軍月山學校	體操幫助法全	二二	〇三
垂井中佐 横道少佐共著	四三〇	應用戰術研究錄全	全	四三〇	二四	N B 氏著	各兵科野外必携全	一八	〇三
A B 氏著	五〇〇	圖上戰術研究錄 第一輯	全	五〇〇	〇四	舊工兵操典	坑道讀本 全三冊 卷の二	一五〇	一五
課題講評	二〇〇			二〇〇	〇四	太田中佐 土屋少佐校正	假備築城全	一五〇	一五

272
431

終

